

3)。

しかしながら、余裕教室を保有する学校数は多いにもかかわらず、十分有効活用がなされていない状況にあります。また、各教科の授業、実験実習、視聴覚教育、情報教育、特別活動等を行うための目的にかなった特別教室の保有状況は、小学校で241校392教室、中学校で133校326教室が不足しています。

一方、児童生徒を取り巻く生活環境が変化していることから、幅広い生活体験の機会を確保し、集団生活を通して主体性をかん養し、他への思いやりの心をはぐくむ多目的スペース^{*}、クラブハウス^{*}、木の教育施設^{*}や屋外教育環境等の特色のある施設を保有する学校が増えています。多目的スペース保有校は平成3年度で小・中学校合わせて、153校と全体の19%を占めています(表7-4)。

したがって、今後は、不足教室の解消に努めるとともに、児童生徒の生活体験や社会体験の機会を多くし、人間関係を豊かなものとするため、特色ある施設の整備や余裕教室の活用に必要な取り組みがあります。

イ 設 備

(コンピュータの整備)

社会の情報化に主体的に対応できる基礎的な資質を養うという観点から、コンピュータ等の情報手段を活用する能力と態度の育成を図ることとした教育課程審議会の答申を受けて、平成元年3月に告示された学習指導要領においては、小・中学校とも、情報化に対応した教育の充実が盛り込まれました。

平成4年度、コンピュータを保有している学校数は、小学校で306校(全校比55.2%)、中学校で220校(全校比90.5%)となっていますが(表7-5)、1校当たりの保有台数が少なく、また、教科特別教室や普通教室、職員室等への設置が多いことから、授業ですべての児童生徒が利用できる状況にはありませ

表7-3 保有教室の状況

(平成3年度)

教室 学校	普通教室					特別教室		
	保有教室	不足学校		余裕学校		保有教室	不足学校	
		校数	教室数	校数	教室数		校数	教室数
小学校	6,926	61	109	297	825	2,891	241	392
中学校	3,037	60	92	115	369	2,256	133	326
計	9,963	121	201	412	1,194	5,147	374	718

(資料)「平成3年度公立学校建物の実態調査報告」(財務課調査)

表7-4 特色のある施設の保有状況

(平成3年度)

施設 学校	多目的スペース		クラブハウス		木の教育施設		屋外教室 施設
	校数	面積	校数	面積	校数	面積	校数
小学校	98	40,167 ^{m²}	13	2,293 ^{m²}	4	-	12
中学校	55	20,599	19	3,654	0	-	13
計	153	60,766	32	5,947	4	-	25

(資料)「平成3年度公立学校建物の実態調査報告」(財務課調査)

表7-5 コンピュータ設置状況調

設置 学校	コンピュータ保有		設 置 場 所(校)					
	校数	台数	専用教室	教科特別教室	普通教室	図書室	職員室	準備室
小学校	306	793	33	18	17	19	197	64
中学校	220	1,474	69	46	7	9	121	42

(資料) 義務教育課調査(平成4年3月)

*多目的スペース：校舎内において学年集会やクラブ活動など、複数の学年または学級の児童生徒を対象に多様な活動や作品展示等ができる部屋やコーナー。

*クラブハウス：学校施設の開放を促進するために、屋内運動場または校舎にミーティング室や更衣室、ロッカー室等を備えている施設。

*木の教育施設：児童生徒の教育活動を促進するための屋外ステージやアスレチックコース、集団研修施設等が木材を活用して整備されている施設。